

アントシアニンを多く含む 新タイプの茶新品種「サンルージュ」

アントシアニンは抗酸化作用や抗眼精疲労作用が期待できる植物由来の機能性成分として注目されています。茶においても新芽のアントシアニン含有率が高い「紅花茶」が知られており、近年ではアントシアニン高含有系統の「茶中間母本農6号」が育成され、チャの新たな利用分野を開拓するものとして期待されていました。しかし、これらは、定植後の活着や収量性などの栽培特性が劣り、実用性に問題がありました。(独)農研機構野菜茶業研究所では、日本製紙グループとの共同研究により、炭疽病や輪斑病に比較的強い抵抗性を有し、芽数が多く、仕立てやすいなどの栽培特性に優れたアントシアニン高含有品種「サンルージュ」を育成しましたので、その特性の概要について紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「サンルージュ」(旧系統名 枕個 03-1384)は、「茶中間母本農6号」を交配親にして、その自然交雑実生群から選抜された品種であり、新芽の色および水色は濃い紅色を示します。
2. 一番茶新芽のアントシアニン含量は「やぶきた」の約20倍、茶中間母本の約2倍です。
3. 炭疽病や輪斑病には比較的強い抵抗性を示します。また、芽数が多く、仕立てやすいのも特徴です。
4. 挿し木床での生育は「やぶきた」より劣りますが、光独立栄養培養法で発根させた後、セル育苗した苗木を定植した場合、圃場での活着、定植後の生育が優れます。



サンルージュ一番茶新芽



サンルージュ やぶきた
一番茶の水色

表 「サンルージュ」の栽培特性(枕崎)と新芽のアントシアニン含量(乾物%)

品種名	早晩性	樹姿	樹勢	挿し床で の生育	定着後 の活着	耐病性			アントシアニン含量	
						炭疽病	輪斑病	赤葉枯病	一番茶	秋冬番茶
サンルージュ	中生	中間	やや強	不良	良	やや強	強	やや弱	0.304	0.370
茶中間母本農6号	早生	やや直立	強	極不良	不良	中	強	弱	0.135	0.274
やぶきた	中生	やや直立	中	良	良	弱	弱	中	0.014	0.022

注) 定植後の活着は光独立栄養培養により育苗したプラグ苗を用いた場合の評価

☆ 活用面での留意点

1. 摘採適期は「やぶきた」よりやや遅い中生で、適期を過ぎるとアントシアニン含量は減少します。また、耐寒性が比較的弱いため、暖地での栽培に適します。
2. 本品種は、アントシアニン高含有機能性茶飲料や天然着色料としての利用が考えられます。
3. 抽出液の色は、酸性が強いほど赤色が強く出ます。
4. 「サンルージュ」は、平成21年6月3日に品種登録出願、8月18日に公表されました。平成21年10月29日から5年間は、(株)日本製紙グループ本社を通じて販売されます。
3. 詳しいことは、(独)農研機構野菜茶業研究所枕崎茶業研究拠点(TEL: 0993-76-2126)にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田勝弘)